ＩＣＴを活用した次世代の人材育成
～新聞記事を通して現代社会の論点を考え，発信力を高める～

学校法人石善学園 新潟第一高等学校

１　学校の概要

学校法人石善学園新潟第一高等学校（藤澤健一校長，生徒数 1137 人）は，昭和 53 年に創設され，昭和 61 年には，県下で最初に中学校を併設した学校である。

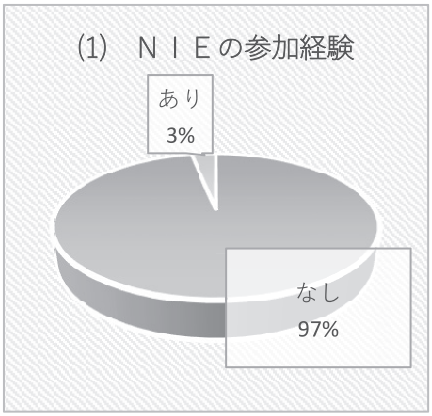
建学の精神は「質実剛健」「自重自治」すなわち「質素で明るく，心身ともにたくましくあれ」「自分を大切に，自分自身の力で生きられるよう心身を鍛える」ということである。新潟第一中学校では，「石善フィロソフィー」という独自のカリキュラムを設け，世界中の人たちが取り組んでいる SDGs のありかたや，身近な社会のさまざまな課題を考えることを授業で取り扱っている。

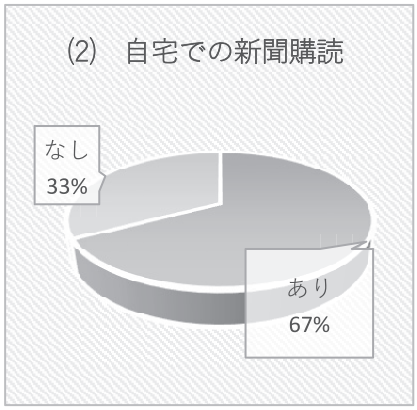
校章は，学業の成就を祈念し，5 本のペン先で梅の花をかたどり，中央に石善学園の頭文字 S と第一の 1 を金文字で配し，外縁を金で囲んでいる。円満な人格の陶冶と学識豊かな人間の育成を目指す本学園の教育理念の象徴となっている。

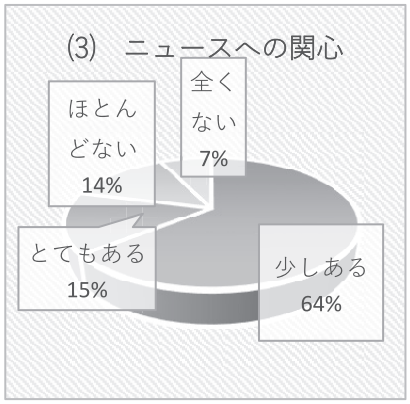
２　NIE 実践のねらい

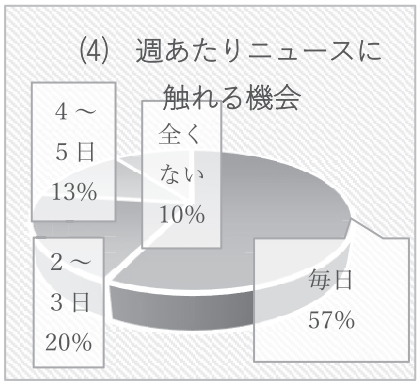
本校では，iPad 1 人 1 台導入の初年度にあたる高校 1 年生の国語の授業（言語活動「情報探索の方法と実践」）の一環として，NIE を実践することになった。そこで，10 クラスの担当者 5 名が集まり，どのような実践を通してどのような力をつけることが本校の生徒にとって望ましいのか検討し，生徒の実態を把握する目的で事前アンケートを行った。

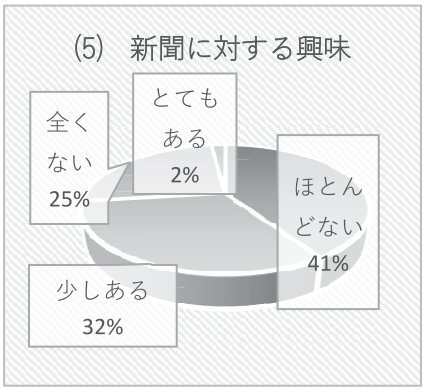
NIE の参加経験は意外に少なく，わずか 3%にとどまった〈グラフ⑴〉。

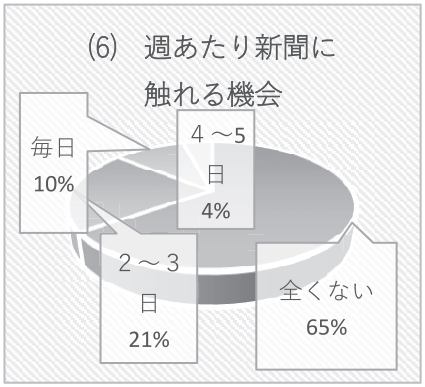












また，自宅での新聞購読世帯は 67%であったが，週あたり 2 日以上新聞に触れている生徒は 35%であり，残り 32%の生徒は，家で新聞をとっていても全く新聞に触れていないことも明らかとなった〈グラフ(2)，グラフ(6)〉。しかし，アンケートの結果を見ると，必ずしもニュースに関心がないわけではない。ニュースに「とても興味がある」「少し興味がある」と答えた生徒は 79%，さらに，何らかの形で「ニュースに触れている」と答えた生徒は 90%にものぼり，ニュースそのものに対しては強い関心を示している様子がうかがえる〈グラフ(3)，グラフ(4)〉。

一方で，新聞に「とても興味がある」「少し興味がある」と答えた生徒は 34%にとどまった〈グラフ(5)〉。スマホを介しての情報収集が一般化している今日においては，情報源としての新聞の価値に気づくきっかけがない状況ではないかと推測される。

確かに，かつてテレビ局の報道カメラマンや新聞社の取材記者がいち早く事件・事故，災害の現場に駆け付け第一報を報道していたその役割を今は一般人が担い，SNS を介していち早く情報を発信する，という例も珍しくない。また最近では，テレビや新聞で報道するより先に SNS から情報発信する著名人も増えており，即時性と情報へのアクセスのしやすさという点で，スマホはいざという時に最も頼れる身近な情報媒体として，広く浸透している。

しかし，情報の質という点から見ると，情報の多くは刹那的な事実の断片に過ぎないことが多く，また，教育的な観点から見ても，それらの情報は生徒の思考力，判断力，表現力の向上に資するものとして，そのまま教材にはできない。

このような実態を踏まえた上で，本校では，NIE 実践初年度として 10 クラス共通で無理なくできるところから，次の 3 つをねらいとした。

2021 年度 NIE 実践 3つのねらい

1 新聞に触れ，新聞を身近に感じてもらう活動を通して，
　情報の一覧性，多様性に秀でた新聞の魅力に気づかせる。
2 新聞を通して，広く社会に目を向けさせる。
3 新聞記事を熟読し，思考力，判断力，表現力の向上につなげる。

３　本年度実践の概要

（１）実践の流れ

令和３年５月 19 日（水）	新潟県NIE担当アドバイザー 蟻塚宰子氏をお招きし，NIE担当教員に，研究の進め方等ご教示いただいた。
令和３年７月 21 日（水）	本校講堂に朝日新聞社新潟総局長 桑山敏成氏をお招きし，高校１年生対象に，ご講演いただいた。生徒は一人一部ずつその日の朝日新聞を手にし，各自のiPadに保存したデジタルデータを確認しながらお話をうかがった。「新聞記事が書き手によってどのように作られるか」「新聞記事を読み手はどのような点に留意して読めば良いのか」について，分かりやすく　お話しいただいた。
令和３年９月　１日（水）	新潟日報，読売新聞，朝日新聞，毎日新聞，産経新聞，日本経済新聞の６紙が，この日から４か月間１部ずつ届く。NIE委員活動開始。新聞閲覧コーナー，スクラップ開始。
令和３年 12 月　２日（木）	新聞授業開始。
令和３年 12 月 22 日（水）	まとめの授業研修会。新潟県NIE推進協議会事務局長津野庄一郎氏，新潟県NIE担当アドバイザー蟻塚宰子氏，新潟高等学校長市川亮氏をお招きし，ご意見ご指導いただいた。

（２）実践例

① 新聞に親しむ働きかけ

新聞に触れ，新聞を身近に感じてもらうため，９月から新聞閲覧コーナーを設け，新聞スクラップを開始した。

新聞閲覧コーナーは，高校１年生フロアに設置し，毎朝輪番制でNIE委員が６紙を並べた。いつでも手に取って読める環境が整ったことで，始業前，昼休み，放課後と，新聞を読む生徒が次第に増えていった。

また，NIE委員から「NIEコーナーの飾りつけをしたい」という提案があり，タイトル等を手作りで作成・掲示した。

新聞スクラップでは，その日の当番生徒が閲覧コーナーに置かれた新聞の中から自分の興味・関心のある記事を切り抜き，教室ごとに置かれたスクラップブックに貼り付け，感想や意見を書いた。この活動は，考査期間を除く毎日行われ，12 月末までに，全員が，1 人 2 回体験した。

② 社会に目を向ける働きかけ

新聞記事を活用した授業を行うにあたり，扱う内容を SDGs（持続可能な開発目標）に関するものとした。SDGs は，すべての社会問題を網羅しているわけではないが，本校の NIE 実践テーマ「次世代の人材育成」，「現代社会の論点を考える」に合致しており，また AI 同様，近年大学入試で SDGs を取り上げる大学も増えてきているにも関わらず生徒のほとんどが SDGs についてほとんど学んだ経験がなく，一度系統立てて理解させる必要性を感じたためである。

そこで，まず手始めに，高校 1 年生担当の国語担当者 5 名で足並みをそろえ全クラス共通で SDG s の周知をはかり，そこから新聞を通して社会に目を向けられるよう，クラスの実態に応じて生徒を導くことにした。

③ 授業実践　SDGs　全クラス共通授業　Introduction

JICA の動画を視聴し，SDGsの基礎知識を得る。

↓

チョコレート問題を例に，我々が解決すべき問題は複雑に絡み合っていることを理解し，物事を多面的・多角的に考察する視点を得る。

↓

SDGs関連の社説から，定義や背景などを読み取り，記述する。

↓

WFP（国際連合世界食糧計画）関係の社説から，貧困の現状と背景などを読み取り記述する。

SDGs　クラス別授業

テーマ「新聞を活用して生徒と社会をつなぐ―SDGs の観点から」

授業Ⅰ　授業者　高橋利通（1-3，1-7，1-9 担当）
寺尾英臣（1-4，1-8，1-10A 担当）
上原洋一（1-6 担当）

予め個人で用意した新聞記事原稿について，iPad で班員と共有し，討議して班のテーマを決定する。

↓

班のテーマについて，新聞各紙，書籍，インターネットから情報収集し，Keynote 上で班員と共同で発表資料を作成する。

↓

班の代表者が，iPad を持って登壇し，資料をスクリーンに投影しながら，クラス内で発表する。同時に，ルーブリックに評価を記入する。

新聞は SDG s と，とても親和性がある。新聞記事から情報を読み解き，現代における諸問題について整理・分析し，まとめて表現する活動の中で，社会における課題は身近にあり，自分事であるという意識を養い，世界を俯瞰する視野を養う契機とすることをねらいとした。生徒たちは「その記事を選択した理由」「記事の要旨」「自分の意見，感想，疑問」等についてまとめ，発表資料を作成した。個人で作成した原稿を班員に発表した後，班を代表しての発表へと進めていった。発表テーマは「福祉」「医療」「貧困」「教育」「水資源」「エネルギー」「平和」等，生徒の関心に応じ，多岐にわたった。

授業Ⅱ　授業者　若林美恵子（1-1，1-2，1-5 担当）

新聞を1時間かけて読み，SDGsに関する記事を見つける。

↓

アフガン難民について取材した報道番組を動画で視聴し，貧困や飢餓の過酷な現状を知り，言葉の重みについて考え，記述する。

↓

キーワードが伏字になった社説を熟読し，文脈から隠れたキーワードを推測する。

▼国連によると［1］的な栄養不足は6億9千万人

▼飢餓は食料の争奪を起こし、新たな［2］をもたらす

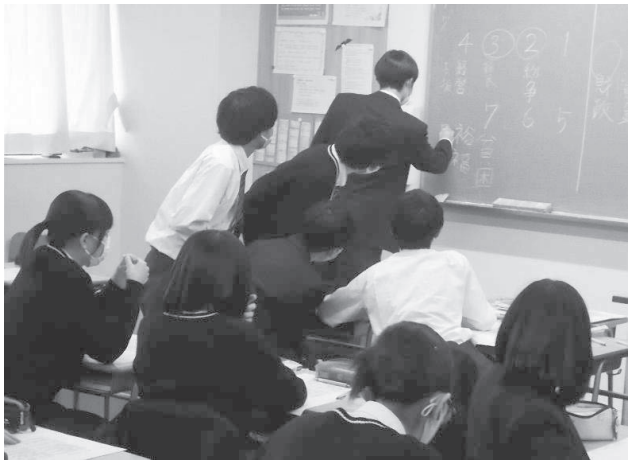
▼子どもや［3］を救済する人道支援などの機関が［4］難に陥っている

▼SDGsは、2030年までに、あらゆる［5］と［6］を撲滅するとしている

▼飢餓の国も［7］の国も、同じ波に揺れる風雨同舟の関係にある

（朝日新聞 2020年10月10日社説より）

新聞を読むことは，生きた文章の中で，抽象度の高い語彙に直接触れ言語感覚を磨くことにつながり，入試小論文や大学でのレポート作成のみならず，生涯にわたって必要とされる国語力の醸成に大いに貢献することが期待される。しかし，事前準備，事後の評価に時間がかかりすぎると，継続的な実践が難しくなる。そこで今回は，通常授業の他に，“気負わず”“いつでも”取り組める NIE をめざし，素材の１つとして，社説を選んだ。社説は一般に硬質な文体で，専門的知識を必要とする内容が多いことから，高校１年生が読むにやや難しいところもあるが，縦 14 文字，全体で 1000 字前後で読むことができるため，授業内完結できる NIE の素材として優れている。



今回の授業では，上のように，一部の語彙を伏せた社説を配り，列ごとにチョークを渡して，隠れた語彙を推測する授業を行った。似たニュアンスを持つ語が様々出てきたが，「プロの言語感覚に迫れるかな？」と声かけすると，再び懸命に社説を熟読・熟考し，我こそはと黒板へ向かう姿が見られた。取材のため来校した新聞記者に「高校生が熱心に新聞を読む姿を目の前で初めて見て，心が震えました」との言葉をいただいた。（ 上記伏字の語彙…… １慢性 ２紛争 ３難民 ４財政 ５貧困 ６飢餓 ７飽食 ）

授業Ⅲ　授業者　片桐ひとみ（1-10 担当）

新聞を2時間かけて読み，SDGsに関する記事を見つける。

↓

選んだ記事をまとめ用紙に貼り，1 時間かけて感想や意見を書く。

↓

書き終えたまとめ用紙を班員同士で見せ合い，班の代表者が登壇し，クラス内で発表する。

少人数クラスでの実践であるため，みんながよくまとまり，この授業の主旨，目的を話すと，すぐ積極的に取り組む姿勢を見せてくれた。

新聞の記事の中から SDGs に関するものを見つけ歓声を上げ，時には真剣な顔つきで記事を読み続ける姿に感動し，授業者自身が力をもらった。

まとめの授業当日も，全く臆することなく堂々と明るく元気な声で発表する姿に接し，子どもたちの計り知れない力を感ずることができた。生徒からも“楽しかった”“またやりたい”という声が聞かれた。

4　成果と次年度の課題

今回の実践の到達度を測る目的で，生徒にアンケートを実施した。その結果，99%の生徒が「考え方に変化あり」と回答，84%の生徒が「行動に変化あり」との回答が得られた。以下，記述回答の一部を掲載する。

物の見方・考え方に変化をもたらしたもの	
新聞コーナー	▸一口に新聞と言っても様々な種類があることに気づいた。▸毎朝6紙を読み比べる機会はそう多くはなく，大きな事象の翌日には，読み比べる事で実に多方面から物事を見ることができた。▸世の中で起きていることがより詳しく分かった。知りたいと思うようになった。▸ニュースでは報道されていなかったり聞き流したりしていたものにも興味を持つきっかけになった。▸新聞は出来事を集めたものかと思っていたが，書いた人の主張も入っていて，読んでいて面白かった。
新聞スクラップ	▸どんな記事があるかわくわくするのと同時に，今何が起きているのかも知って考えることができた。▸なんとなく新聞を読むのではなく，記事を読み込んで自分の考えを持てるようになった。▸1つの記事に対して真剣に向き合うことで，内容に興味を持つことができた。▸政治についてあまり興味がなかったが，スクラップを通して知りたいと思うようになった。▸自分の気になる記事を探すことはとても

	楽しく，多くの記事を読んだ。他の人の感想を見て，自分にはない考え方を吸収できた。▶文章を書くこと，まとめることがうまい人，難しそうな話題でも自分の意見を持っている人がいることを知った。▶新聞を作っている目線になり，自分だったらどう作るか考えるようになった。
授業	▶名前しか知らなかった SDGsの掲げる項目や詳細まで知ることができた。▶SDGs の具体的な目標を今まで知らずに生活してきて，日本や世界の貧困ってこういうことなんだと理解することができた。▶動画視聴でインプットしたものを，授業を通じてアウトプットできたことが良いものをもたらしてくれた。▶様々な問題は密接に関わり合っていて，1つだけ解決すればいいわけではないことに気づけた。▶1つ1つのことがいろいろなゴールにつながるように社会が成り立っているんだなと少し思うようになった。▶自分に何かできることをしたい，現地でボランティアしてみたいと思った。
班活動	▶どの記事を用いてまとめるのがよいか班員と考えることで意識が変わった。▶以前はどこか他人事のように感じていた部分もあったが，自分や周りの人，ひとりひとりが抱えている世界の問題なのだという認識になった。▶いろいろな意見が出て，考え方は1つじゃないと改めて知った。▶いろいろな切り口から解決案が出てきていて，協力することで様々なアイデアが生まれることがわかった。▶班の人と協力して1つの作品を作り上げるおもしろみを感じた。

自分自身の行動に変化をもたらしたもの	
新聞コーナー	▶廊下に出た時などに少し立ち寄って，今日どんなものが記事になっているかと確認するようになった。▶新聞が身近になり，通り過ぎず立ち止まって読んだ。▶社会でどんな事が起きているのか興味が出て新聞に触れる機会が多くなった。▶新聞が気になって，家にある新聞も自発的に読むようになった。
新聞スクラップ	▶何か気になることがあるとそれについて調べたり，家族と話したりするようになった。▶人によって着眼点が異なることを意識しながら記事を読むようになった。
班発表	▶共感される発表の工夫ができるようになった。▶班長になったことで自分が中心になって行動する苦手なことに挑戦でき，チャレンジ精神を芽生えさせることができた。▶時間が足りず，準備も不十分であったが，その中で伝えたいことを伝えようと努力した。

公開授業後の研究協議で参観していただいた方々からさまざまな評価及び来年度に向けて改善・工夫すべき点についてご指導していただいた。

・新聞記事の選定はわかりやすく親しめる記事からスタートしてもよい。
・班員同士のディスカッションを取り入れたらどうか。その際，意見が分かれたらその根拠を追究するとよい。
・新聞を語彙習得に使ってほしい。語彙にこだわった授業の際，端末等使ってその場で調べさせることもあってよい。
・現代社会の問題把握に新聞記事は一度にさまざまな内容を把握する点で有効。その後の調査はインターネットのほうが早いが，ネット記事の信頼性を確認すること。活字の本を根拠にしたい。

こうしたご指摘を生かし，次年度の活動をより充実したものにしていきたい。

（寺尾　英臣，若林　美恵子）